

クオリア

～その人のための大切な時間～

看護部通信

第1号

平成29年9月発行
さいたま市立病院看護部
リクルート委員会

今年の夏は雨が多く晴れた日が少なかったですが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。当院では4月に75名の新入看護職員を迎え、看護部は一段と活気があふれています。このたび皆様に当院で行われている看護を紹介するために看護部通信「クオリア」を発行することにしました。「クオリア」とは「質」や「状態」をあらわすラテン語であり、心の中で感じる様々な質感あらわす言葉です。陣田によると看護の本来の役割は「クオリア」を生成することであり、「良質なケアの提供」のために、一人ひとりの個別なニーズに対応する看護であるとしています。このことから看護部通信の名前を「クオリア」にしました。患者さん、ご家族との出会い、生命と向き合い、患者さんの大切な時間を共有した看護の実際をお伝えしていきたいと思っています。第1号では周産期センターでの「小さく生まれた赤ちゃんに安心を与えるために工夫した看護」をお伝えします。



「赤ちゃんに安心を与えるために工夫した看護」

周産期センター 副看護師長：松本 裕子



さいたま市立病院の周産期母子医療センターには、さいたま市内だけでなく市外からも治療の必要な赤ちゃんが入院してきます。私たち NICU・GCU の看護師は、お母さんのおなかの中で大切に育てられた赤ちゃんが、入院後も成長・発達ができるよう、赤ちゃん一人一人に合わせた看護を行っています。お母さんのお腹の中と違い、NICU・GCU の環境は多くの刺激に溢れています。そのため、刺激を最小限にして赤ちゃんがよりよく成長できるように、赤ちゃんの訴えに耳を傾けながら、音・光などの環境を整えています。



ある時、出産予定日より3ヶ月ほど早く出生した700g台の赤ちゃんが入院しました。呼吸のサポートや点滴による治療を閉鎖型保育器の中で行っていました。修正34週に入る頃、体が大きくなってきたので開放型保育器に移り治療をすることになりました。体は大きくなりましたが、まだ呼吸器を使用し未熟児網膜症の治療を行っていましたので、暗い環境の中で安静を保っていく必要があります。開放型保育器は全体を覆うと観察がしづらいため、受け持ち看護師は、必要な治療や観察ができ、かつ赤ちゃんが安心できる環境を作りたいと考えました。そして頭の部分だけ覆うドーム型のカバーを手作りで作成しました。このドーム型カバーと体位を整えるバンパーを一緒に使用すると、開放型保育器の中で赤ちゃんがすっぽり包まれ、治療や観察に支障をきたすことなく安心して眠ることができました。そして、開放型保育器に移ったことで、お母さんが抱っこしたいと思った時に、いつでも抱っこできるようになりました。閉鎖式保育器に入っていた時は、少し遠い存在であった赤ちゃんを抱きしめることで、お母さんにも安心感を与えることができました。その後赤ちゃんは安静を保ちながら必要な治療を行なうことができ、出産予定日を少し超えた頃に元気に退院することが出来ました。私たちは、これから入院中であってもご家族と赤ちゃんが大切な時間が持てるように環境を整えていきたいと思えます。

閉鎖式保育器での環境調整



開放式保育器での環境調整

